

こんにちは。研修部の杉元です。

「目の見えない人って、よく首をぐるぐる回したり、身体を揺り動かしたりしますよね。あれは、なぜなんですか？」

こんな質問をされたことがあります。視覚障がいのある子どもを指導されている先生方の中にも、特に生まれつき視経験のない子どもが激しく身体を動かすのを見て、「あれはやめさせるべきか？」と、悩まれる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

視覚障がい者のそういった行動には、「視覚刺激の不足を補うものである。」とか、「ストレスを和らげるため、安心感を得るため、あるいは気分が盛り上がってきたときの内面の表出」等、いろいろな理由が言われています。特にストレスを感じたときのサインなら、晴眼者でも緊張したときに貧乏揺すりをしたり、髪の毛を触ったり等、無意識にやっている人はいますね。視覚障がいのある人の場合、その行動が少し派手で他と違っていているため、異様に写るのかもしれませんが、しかし、その行動によって彼らが自己調整を図っているのだとしたら、その行動全てをやめさせることは、少し慎重になった方がよいでしょう。やめさせられたことで、より大きなストレスを抱えてしまい、他の不適応行動が起きてしまうかもしれないからです。

では、そんな彼らの行動を、視覚障がい者だからといって、いつでもどこでもそのままにしておいていいかといえ、それもまた問題です。

彼らの行動を受け入れるか、やめさせるかを判断するポイントは、その行動によって彼らの安全や社会的な立場が危うくならないか、ということだと思います。

例えば、他の人と活動しているときや道路を歩いているときなどに身体を激しく動かせば、周りの人や物にぶつかって、自分も他の人も怪我をする可能性があります。また、視覚刺激を補う行動の中には、自分の目を押さえ続けるといった、直接健康に害を及ぼしかねないものもあります。さらに、社会に出ると、公共の場で身体を激しく動かしたり、人と話しながら首を回していたりすると「変な人」「常識のない人」として差別やいじめの対象になることもあり得ます。多数の健常者が中心の社会で、視覚障がい者がアイデンティティを無くすほど何でもかんでも周りに調子を合わせていく必要はないと思うのですが、ある程度「見える世界」を意識することは大切です。

彼らの目立つ・不思議な（と、晴眼者である先生方や保護者の皆様がお感じになる）行動を見かけたら、なぜ彼らがそれをしているのか、まずはよく観察したり、話に耳を傾けたりしてください。

「ストレスになっているものはないか？」あれば、それを取り除く方法はないかを考えます。

感覚調整や、気分の盛り上がりに合わせて行動なら、TPOを考えるような習慣を、子ども自身が身に付けられるよう支援していただきたいです。例えば、授業中に先生の話の聞いているとき、「集会活動のときなどは我慢するようにし、自由時間には思いっきり身体を動かしていい。」というようにです。我慢させるべきときには、その理由を子どもが納得できるようにきちんと伝えることが大切です。そうして学んだことが、きっと将来の社会生活の中で活かされていくはずですよ。

やめるべき行動をどうしてもしてしまう場合は、たとえば「目を押さえなくて、これを触ってみようか」、「首を回す代わりに、今はこれを握ってみない？」等、注意を向けられる代替物を提案してあげるのもよいでしょう。

先ほど私は、視覚障がい者が「見える世界」を意識することは大切、と書きました。次回は、そのことについて、もう少し深掘りしてみたいと思います。

今回も読んでいただき、ありがとうございました。